



・行・者・会  
・都・障・者  
・京・害・ス  
・ス・ポ・ー  
・振・興・ツ  
・ス・ポ・ー  
・ス・ポ・ー  
・ス・ポ・ー

題字 芝田 徳造

### 体験・ふれ合いで広がる障害者スポーツ

2009 京都府立体育館サマーフェスタ

#### 京都障害者スポーツ振興会 つどい専門部

辻井 武

7月26日(日)府立体育館で地域との連携、スポーツ推進を図ることを目的にサマーフェスタが開催されました。振興会も障害者スポーツを広く理解してもらうために参加しました。当日つどい専門部として参加された辻井武さんに話を伺いました。

#### スポーツフェスタのようす

府警音楽隊やカラーガード隊、嵯峨野高校空手道部の演武などオープニングセレモニー後、第一競技場でバドミントン・卓球・ソフトバレーボールなどの体験。第二競技場でトラポリンと自由に遊べるフリースペース。トレーニング室などで器具を使つての体力相談。二階廊下では地域商店街・自治会など

のフリーマーケット。高校の物品販売。児童生徒の美術作品の展示やお茶席など体育館すべてを利用して開催されました。

#### 振興会の取り組み

振興会は第二競技場のフリースペースでの親子でエンジョイスポートコーナーの一角を利用し、フライングディスク体験コーナーを中心に各大会のポスターや写真の展示。競技用の車いすや卓球バレーのラケットやピン球等の器具の展示。障害者シンク口・車いすハンドボール・卓球バレーなど障害者スポーツ全般のビデオを放映しました。

フライングディスク専門部から5名協力しても

らい、つどい専門部の7名とともに参加者にいろいろな障害者スポーツを体験してもらったり、障害者スポーツの紹介を行いました。

#### 参加者のようす

フリースペースは親子で参加している人が多く、ビデオ放映されているシンク口や卓球バレーの様子を興味深く見たり、アイマスクをしてピン球の音だけを頼りにラケットで打っている人。車いすを実際に操作したり、床に座り込んで卓球バレーのようにピン球を打ち返したりしている家族づれ。今まで遊びとして行っていたフライングディスクがスポーツ競技として行われているのを体験され、多くの大会で行われていることに驚いておられました。

体験してもらったスポーツが、障害に合わせ少し道具を工夫することで、障害のある人はもちろんのこと、誰でも行うことができるスポーツになることを感じてもらえました。

今まで障害者スポーツといえ、パラリンピックの程度は理解されていたの

が、重度の障害のある人を対象としたスポーツを初めて体験され理解してもらえたと思います。シンク口のビデオでは水の中では身体の不自由さを感じさせないシンク口の演技を見て驚いておられました。

#### 感想

今までの振興会の取り組みは、父母や兄弟以外の参加者は多くはなく、一般人とは一緒に行うことは少なく、自然に障害者スポーツを知ってもらうことが少なかったように思います。

今回の取り組みは、スポーツフェスタに参加された人に、少しは障害者スポーツを理解してもらえたのではないかと思います。まず、肩を張らずに自然な形で経験してもらおうことが大切ではないでしょうか。体験してもらおうことで理解が得られることをスタッフ一同痛感したすばらしい日となりました。

このような機会を与えていただいた府立体育館に感謝いたします。

行事予定	9月	20(日)	第29回全京都障害者総合スポーツ大会陸上大会	京都市西京極陸上競技場	来月の つどいは  10 / 11  第2日曜日
			214回障害者水泳のつどい	伏見港公園プール	
		27(日)	城陽障害者スポーツのつどい	サン・アビリティーズ城陽	
			第29回全京都障害者総合スポーツ大会アーチェリー大会	南丹市日吉総合運動広場	
	10月	4(日)	全京都障害者フライングディスク大会	丹波自然運動公園	
	10~12日	第9回全国障害者スポーツ大会	新潟県		
京都障害者スポーツ振興会ホームページ				TEL/FAX075-712-7010	
http://web.kyoto-inet.or.jp/people/spo-shin/				(2009年8月16日に一部更新)	

### スポ振ルネサンス

「心でつなぐ活動を！」

京都障害者スポーツ振興会

副会長 水谷 裕

京都障害者スポーツ振興会は、誕生してから38年余、活動方針として「スポーツの輪を広げる活動」と「スポーツの高度化を進める活動」の2本柱を軸に活動目標を置き、前者では「すべての障害のある人にスポーツの喜びを」をテーマに、巡回スポーツ教室を皮切りに、スポーツつどい・水泳つどい・スキー雪あそびなどを、また後者では「より高いレベルに向けての競技力の向上」をテーマに、全スポや車いす駅伝などの選手の育成、大会の開催など、多くの取り組みを行ってきました。

その間、会の活動に関わってきた多くの人々の尽力によって、障害のある人々のスポーツ活動が府内に拡がりを見せ、ほとんどと言って良いほど色々な面でスポーツをする環境が整っていなくなった。発足当初に比べると、現在は、整ってきて、大なり小なりの差はあるにしても、各地域に「場」が確保されてきて、障害のある人々の立場

に沿ったスポーツ活動の振興に取り組んできたことをに一定の評価を得てきたという自負を持っていました。

しかしながら、その中で今まで見過ごしてきたことがあったのです。

それは何かというと、手の届き難いところへ手を差し伸べるといふ地道な活動への取り組みが十分であつたためとどうか、何の気なしに聞き、聞き流してきてしまったこと。

ここ1、2年の間だけでも、複数のスポーツ施設において、京都府障害者スポーツセンターでは、とても考えられない理由的根拠（障害そのものや、障害に伴う状況など、基本的な人権的なもの）で、障害のある人の教室への参加拒否や一般利用を制限されているという事実なのです。

このように、教室参加や一般の利用を断られた人達も含め、あらゆる障害のある人が京都市障害者スポーツセンターでは何の問題もなく、当たり前のように普通にスポーツライフを楽しんでおられます。

障害のある人の利用を部分的にしても、阻害している他のスポーツ施設と京都市障害者スポーツセンターとは、どこが、また何が違うのでしょうか。私は、施設の名前に「障害者」という字句が入っているだけで、なんら変わらなれないと思つていました。とりわけ、ハード面において、全く違いはありません。

本来、スポーツ活動は「いつでも、どこでも、誰でも」できるようにならなければいけないと考えます。ですから、このスポーツ施設においても、障害のある人も当たり前に使えなければならぬので、それがなかなかできないのが現状なのです。

障害のある人が使わさせてもらえないということとは、昔からあつたことなのです。特に近年の指定管理者制度が導入されてから顕著になつたように思います。

障害のある人にも、気軽に利用できるように、障害のある人のためのまちづくり条例に基づき、自治体が建設し、せつかく環境を整備したスポーツ施

設なのに、管理を任された事業所で働いている現場の人に、障害や障害のある人に対する知識や気遣いが少し足りないばかりに、せつかくの前向きな施策に込められたそれらの思いも、台無しになりかねません。

建物や構造などハード面がどれだけ整つていても、そこに関わる人々の心のあり方、意識の持ち方に配慮がないと難しい。どれだけの障害のある人々と同じ目線を持ち、対応できるかが、もつとも重要なことなのです。障害の多様化や軽度の合いなどの違いから杓子定規な対応では無理が生じます。障害に関する知識に ついても正しく得て、もう少し障害のある人のことについて理解を進めて欲しいものです。

私達、京都障害者スポーツ振興会は、このようなことから目をそらさず、問題に正面から取り組んでいかなければ、本当の意味で、障害のある人の立場に立つたスポーツ振興や普及を行つていく団体であると胸を張つて言えないのではないのでしょうか。

### （お知らせ）

#### 「水泳のつどい」が

#### 9月から始まります

7月、8月と休憩に入つていました「水泳のつどい」が、9月20日（日）から、毎月第3日曜日（6月だけは第一日曜日）に再開します。

最近、小さな子どもたちが、深く大きなプールに挑戦すべく、時には目を水を浮かべながら、何とか歩き始めています。また、水泳マラソンにチャレンジすべく、黙々と距離を伸ばし続ける方も徐々に増えてきました。小さな子どもたちの歓声と、水泳マラソンに汗を流し、達成感であふれている水泳のつどいに、一度足を運んでみましょう。

なお、ボランティアと一緒にサポーターして頂ける方も併せてお待ちしております。

\* 介護の必要な人は、介護される方と一緒にプールに入つて下さい。

\* 当日受付で、参加費は無料です。はじめての方は、障害者手帳を準備してください。

\* 水着・水泳帽子を持参してください。